

心理学的な支援と応用演習(高齢者心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	加藤 伸司	

■授業のテーマ

加齢に伴って起こる心理学的変化、認知症の原因疾患と心理的特徴、パーソンセンタードケアの基本的な考え方、介護家族の特徴と支援の在り方を理解する。また認知症のアセスメント技法を学び、その効用や限界について理解する。

■授業の目的

福祉心理学及び社会福祉領域における高齢者支援の実際を心理学の視点から理解し、アセスメントや援助技法を修得する。

■授業の到達目標

- ・ 高齢者心理学及び近接領域のこれまでの研究成果を理解し、エビデンスに基づく理論的な考え方を説明できる。
- ・ 認知症のアセスメントの技法を理解し、認知症の人を対象にした簡便なアセスメント技法を習得し、応用できる。
- ・ 認知症の人に対するケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を理解し、説明できる。
- ・ 認知症の人および介護家族の思いを理解し、支援に役立てることができる。

■授業の概要

高齢者心理学及び近接領域で取り組んできた課題について基本的な理解を深める。具体的には「感覚・知覚機能の変化」「反応の変化」「注意の変化」「記憶の変化」「知的機能の変化」などの心理学的変化を系統的に学び、高齢者に対する心理学的な理解を深めていく。これらのテーマを基本的に理解したうえで、認知症の原因疾患別の特徴と、認知症ケアの理念であるパーソンセンタードケアの考え方を学び、支援にあたっての基本姿勢を身につける。さらに認知症のアセスメント技法について学び、アセスメントの実施方法だけではなく、結果の考え方を理解し、実際に応用できる知識を習得する。最後に認知症の当事者と介護家族の思いを理解し、当事者や家族の視点に立った支援につなげることができるようになる。

■スクーリング事前課題（学修時間の目安：12時間）

- ・ スクーリングを受講する前に、『心理学的な理論と支援（高齢者心理学）』の課題レポートを提出してから、スクーリングに出席することが望ましい。またスクーリングまでに、高齢者に対する心理学的アセスメントや援助技法に関する書籍、文献を読み、理解を深めておくこと。
- ・ 心理学的アセスメントについては、大学から送付される必読図書5)の『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』を事前に学修し、添付されているDVDを視聴しておくこと。

■スクーリング授業計画（状況に応じて会場ではなくリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	加齢の考え方	オンデマンド
2	感覚・知覚機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
3	反応時間や反応の種類、注意に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
4	記憶に及ぼす加齢の影響	オンデマンド
5	知的機能に及ぼす加齢の影響	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
6	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴①	オンデマンド
7	認知症の原因疾患の理解と心理的特徴②	オンデマンド
8	高齢者に対する心理的支援と心理職の役割	オンデマンド
9	認知症のアセスメント	対面 or リモート
10	認知症の人の症状の理解とパーソンセンタードケアの理解	対面 or リモート
11	認知症高齢者の介護家族の理解と支援	対面 or リモート
12	認知症の人と当事者に学ぶ	対面 or リモート

■レポート課題

スクーリング 事後課題	<p>次の2つの課題から1つ選択しなさい。</p> <p>【課題1】 高齢者に対するアセスメント技法について、自分の興味のあるものを選択し、その使用目的、実施方法、結果の判定方法についてまとめ、自分自身の意見を交えて考察する。</p> <p>【課題2】 高齢者に対する心理学的援助技法について、自分の興味のあるものを選択し、その実施目的、実施方法、効果についてまとめ、自分自身の意見を交えて考察する。</p>
----------------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



アセスメント技法に関しては、特に認知機能検査を中心にまとめた書籍や論文が多い。それらの文献をいくつか読み、その使用目的や実施方法、結果の判定法についてまとめ、アセスメント結果の活かし方を含めて自分自身の意見も交えながら考察する。



心理学的援助技法に関しては、一般の高齢者だけではなく、認知症高齢者を対象にしたものも多い。レポートをまとめるにあたっては、様々な援助技法のなかから、自分の興味ある技法の一つを選択し、その実施目的や実施方法、効果についてまとめ、自分自身の意見も交えながら考察する。

■評価の方法・基準

- ・スクーリング参加とスクーリング事後課題を合わせて評価する。
- ・スクーリング時のグループワーク参加度25%、積極性10%、プレゼンテーション15%
- ・スクーリング事後課題50%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

参考文献は『心理学的な理論と支援（高齢者心理学）』と同様です。

- *1) 加藤伸司編 『発達と老化の理解』介護福祉士養成テキストブック10 ミネルヴァ書房 2010
- *2) 日本認知症ケア学会編 『認知症ケア標準テキスト 改訂5版・認知症ケアの基礎』(株)ワールドプランニング 2022
- *3) 大塚俊男・本間昭 監修 『高齢者のための知的機能検査の手引き』(株)ワールドプランニング 2011
- *4) 長谷川和夫・加藤伸司著 『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』中央法規 2020
- 5) 黒川由紀子編 『老いの臨床心理』日本評論社 1998
- 6) 東京都老人総合研究所編 『サクセスフル・エイジング』(株)ワールドプランニング 1
- 7) 佐藤眞一・権藤恭介編著 『よくわかる高齢者心理学』ミネルヴァ書房 2016 98
- 8) 松田修編著 『最新老年心理学』(株)ワールドプランニング 2018